

高等学校DX加速化推進事業の成果発表会に係る参加者からの感想等について

(R7. 8. 29実施分)

加治木工業高等学校

感想及び気付いた点等

CADの後継上位のBIM (Building Information Modeling) の活用が興味深かった。普通科では難しいが、興味ある生徒もいると考える。

BIMを導入し、建築・機械・電子分野でのDXを推進。BIMは初めて聞いた。
Eスポーツ同好会の活動が面白そう。

印象に残った点 工業高校ならではの特色ある取り組み
BIM, CIM, マイコンカーラリー, eスポーツ
地域との協同

CADをさらに発展させたBIMを活用され、さらにその知識を確かなものにするため検定に取り組んでおられ、とても興味を持ちました。またライントレーサやeスポーツなど、生徒が楽しんでいる姿が想像できる内容であった。

企業からの要望に対応した連携強化がテーマであった。
学科の特性上、Eスポーツ同好会の内容には驚くが、現実的に多くの学校に普及可能性はかなり厳しく
かなり先進的な取組であった。

専門教育でのDX活用、参考となりました。ありがとうございました。

・Eスポーツ同好会ができたことにより、加治木工業に行きたい生徒が増えてくるのではないかと。
マイコンカーやVR, AR等の興味のある内容であった。

企業との連携が深く、とても驚きました。社会に求められる生徒像について、企業からヒントを得ることができている点が印象的でした。
また、マイコンカーの走行を霧島地区で見たことがありましたが、これまで感覚で調整していたのかと少し驚きました。「感覚での調整をICT機器で明確にする」という考え方は、家庭科の学習にも応用できそうで、とても参考になりました。

先生方の熱量がとても印象的でした。

工業高校ならではの3Dプリンターとその活用術は目から鱗でした。活用術として、本校でも活かせることがないか相談したいと思いました。

即戦力とデジタル人材の育成。
建築科、土木科、機械科、電子科でそれぞれの特色ある実践。マイコンカーラリー県大会やコンテスト出場も行っている。マイコンカーの大量データの解析や情報Ⅱの導入。可視化・分析が行えている。eスポーツ大会全国3位。工業高校ならではのDXを知ることができた。

BIM, CIM, Eスポーツ同好会についての発表が特に良かった。

次世代3DCADの活用など興味深い内容であった。

eスポーツでの取り組みや専門的な実践がとても興味深かった。

工業分野での活用のみならず、eスポーツの可能性を学ぶこともできた。

マイコンカーに力を入れているのは聞いていたが、必要な部品を3DCADで設計し、3Dプリンタ等を活用し制作していることに驚いた。生徒の探究心を育む取組が進んでいると感じた。

高等学校DX加速化推進事業の成果発表会に係る参加者からの感想等について

(R7. 8. 29実施分)

加治木工業高等学校

感 想 及 び 気 付 い た 点 等
専門高校ならではの多くの取組をされていて、とても興味深く発表を聞かせていただきました。ありがとうございました。
建築分野では、最新のBIMについて「企業側から取り扱ってほしい」声を受けて、外部講師による資格取得に向けた講習をした取組事例が参考になった。マイコンやEスポーツでもDX事業を活用したデータ解析を行っていた。発表が長かった。
生徒発表を参観しました。 建築科と土木科は一般向けの体験会で、VR技術を知ってもらう活動を また、マイコンカーの改良に3Dプリンターを活用したり、Eスポーツの全国大会へ出場などしていた。
専門分野のデジタル機器を活かした取組で、今後の教育が楽しみになるような内容でした。 e-sports同好会は本校でも生徒からの声で設立願いがあったので、とても興味深かったです。
工業系ならではの、BIMやCIMの活用は初めて知ることができた。 マイコンカーの活動により、生徒の探究心を向上させる、良い活動である。 Eスポーツ(プレステーション)は、老若男女だけでなく、障害のある方との活動など、幅広い活用方法も知ることができた。
専門学科での学びにおいて、探究心を育むことを念頭にデジタル技術を活用していた。
VRゴーグルで映像を確認しながら、タイヤ等の製作を行うことができていた。DXを利用し学習している事が、社会と直結しているのを感じた。
スクーミーボードを使って、プログラムとセンサーを繋ぎ多様な使い方をしていた。工業の内容を知れてよかった。
BIM(CIM)・VR技術など、最先端の技術を取り入れていることに驚いた。 マイコンカーラリーも、楽しみながら先端技術を学べる良い教材であると感じた。 eスポーツ同好会も、教員の趣味と生徒の興味関心と地域の需要がうまくマッチングした取組で興味深かった。
専門性が生かされ、生徒たちの能力が引き出される取り組みだと思いました。
専門性がそれぞれあり、学校の実情に応じて、DX化も進めるべきだと感じました。
工業高校ならではの活動だが、BIM・VR技術の存在を初めて知ることができた。
技術力を持っている学校にさらにDX加速化推進事業での取り組みが組み合わさっていたので指導する側が楽しそうに思いました。
企業からの要望でBIM・VR技術の習得などをさせるなど社会の実態に合わせて対応をされていることに感心した。
生徒交流会で、本校(大島高校)の生徒と最初に交流していました。生徒たちも、専門性の高さに感銘を受けていたようでした。
ハイスペックPCの導入により、授業だけでなく探求活動や部活動でも高性能なICT機器に触れる機会が増え、実践的ねスキル習得が可能となっていました。特に画像処理やプログラミング、CAD設計などといった高度な作業にも対応でき、デジタル人材育成に直結する取り組みでした。
学科の特性も踏まえた取り組みで参考になりました。

高等学校DX加速化推進事業の成果発表会に係る参加者からの感想等について

(R7. 8. 29実施分)

加治木工業高等学校

感想及び気付いた点等
各科からの活用の報告がありました。他学科の活動を聞くと商業科も新しいものに触れる機会を作っていかなければと感じました。建築科は実際に建築を作るとはむずかしいが、データ上で作ってVR体験等ができるのはいいなと思います。発想や創造を立体的に見れることで、気づきも多いのではないかと思います。eスポーツ部も楽しいだけでなく、知的財産権等を学べるいい機会だと感じました。
3DCADの次世代であるBIMは恥ずかしながら初めて聞いた内容であった。商業高校ではCADを使うことはほぼないので、できれば加治木工業高校にアポをとり直接見させて欲しいと感じた。またe-sportsは本校でも取り入れているだけに機会があれば交流をお願いしたい。
作品を制作し、出店している。高スペックPCを活用して、今まで、できなかったことが充実して行えるようになったとのこと。
各学科で使用されている事例を見て、参考になった。eスポーツもこれから広がっていくのではないかな。
工業高校で扱うような内容が、高校に配備されているPCでは対応できないという話に衝撃を受けた。それほどICT機器の発達早く、ICT機器などの発達に合わせ県も設備の面で早い対応をしていると感じた。加治木工業はDXハイスクールの予算をうまく活用し対応されていたが、本来ならこれは県が行うべきことなのではないかと感じた。
※生徒の発表を見ていました。
各学科の特色を生かしてDXを取り入れていた。特にVR、ARについては、本校でも伝統芸能や防災の分野で取り入れているところなので、参考にしたいと思った。
工業科の専門的な取組が大変参考になった。特に競技会やコンテストに対する取組が素晴らしいと感じた。
工業高校ならではの、eスポーツ同好会、BIM・VR、CIM・VRなどの活用が素晴らしいと思いました。地域連携、マイコンカーなど工業高校らしさが良かったと思います。
CADやCIMについては生徒の取り組みやすい教材であると思った。マイコンカーの製作についてもデータ収集などより質の高い取り組みが展開が予想され面白そうだった。Eスポーツの取り組みにおいても、VRやARの技術を学ぶのみ取り組みやすい活動であると感じた。許可申請など勉強するところも多くありそうであり、生徒、職員のスキルアップの出来る良い取り組みであると感じた。普通で授業内や普通教科間での活用について活用されているところがあれば活用例など教えていただきたい。
工業高校であり、DXとの親和性が高く、専門特化した取り組みが参考になった。
VRを活用した授業やコンテストへの参加、E - スポーツ部の活動などが参考になった。
各学科の特長を生かしたDX事業の活用がなされていた。BIMの導入など先端的な体験ができていた。